

# 学びや

## ホームスリッパ

軍事情勢が切迫してき

た1944(昭和19)年6月30日、「学童疎開促進要項」が閣議決定されました。これ以降、全国大都市で学童集団疎開(以下、集団疎開)が始まり、京都市では45年3月から4月にかけて、1

11校の児童約1万4千人が、第一次疎開に出発しました。では、幼い子どもが家族から引き離される集団疎開は、いったい何を目的になされたのでしょうか。

一般的には、「児童を空襲の被害から守るため」と説明されることが多いようです。しかし現実は、集団疎開とは学童ノ戦闘配置(東京都

11校の児童約1万4千人が、第一次疎開に出発しました。では、幼い子どもが家族から引き離される集団疎開は、いったい何を目的になされたのでしょうか。

行のために最も合理的で効果の良い方法だとされたのが、集団疎開だったとされています。詳しく見ていきましょう。

集団疎開の狙いは、大抵「戦後の守り」を担う者と考えられていた。まず、空襲の際に子どもが消火の足手まといにならないようにするため。当時は、空襲で家が焼けても逃げることは禁止され、その場で消火活動に当たらねばなりません。ここで紹介した学校農園

## 子の「戦闘配置」が実情

つまり、疎開先は勉強をする場所である以上に、労働をする場所だったのです。

しかしそれでも、児童たち自身が食べるものは少なく、皆やせ細っていました(写真2)。

(京都市学校歴史博物館 学芸員 和崎光太郎)

今回紹介した資料は、学校歴史博物館(下京区)で開催中の企画展「戦争と学校 戦後70年をむかえて」で展示しています(水曜休館)。



写真1、淳風国民学校・長林寺寮での朝の勤労 (現亀岡市、1945年)



写真2、教業国民学校・少林寺寮前での記念撮影 (現福知山市、45年)